



採点者として同窓会役員も参加する
電気会の卒業研究中間発表会

学生支援さらに充実(電気会)

会員8割が教員(数学会)

大会にOBチームを結成して参戦したりと、積極的に大学や学生たちとかわっている。

現在、在学生の学生生活支援をさらに充実させようと検討中で、今後の活動が楽しみだ。卒業生には、大藤電設名誉顧問の藤田實氏、中部理化社長の松野一彦氏、名城大学教授の大江俊美氏らがいる。

数学会の母体は、1951年に発足した初代数学会。数学科教員と在学生で構成し、研究発表が主な活動だったが、53年に数学科卒業生が主体となった組織に改変され、現在に至っている。

名城大学理工同窓会の第2回目は、電気電子工学科卒業生で組織する「電気会」、数学科卒業生の「数学会」、材料機能工学科卒業生の「材料会」、情報工学科卒業生の「情報会」の活動について紹介する。

電気会の発足は1962年、現在の会員数は約1万1500人。年に1回の電気会誌の発行、会員相互並びに他の同窓会との情報交換も兼ねた新春懇談会、ミニ講演会やソフトウェア大会の開催など活発な活動を行っている。卒業発表会での優秀論文発表者に対して賞状と記念品を贈呈したり、ソフトウェア

名城大学理工同窓会 (電気会・数学会・材料会・情報会)



2015年に開催した材料会の
10周年式典・祝賀会

いる。活動内容は学術的な講演の開催や学会雑誌の発行、他学科との情報交換、新春懇談会への参加など。現在の会員数は約4300人で、会員の8割が教員という特徴ある会員構成となっている。主な卒業生には、名城大学准教授の富田耕史氏、同助教授の内田達弘氏らがいる。

材料会は2000年に新設された材料機能工学科の卒業生で構成している。なお、14年にノーベル物理学賞を受賞した赤崎勇終身教授の研究は、世界最先端をいくものである。

材料会の実質的な活動がスタートしたのは04年から。現在までの間、先輩諸氏の支援を受けながら会員名簿の作成、会則の立案制定など、今後の会の運営・活動を基盤とした見据えた基盤

わが友 わが学び舎
東海の同窓会

月曜 スマイル
火曜 老舗探訪
水曜 達人
木曜 メディカル
金曜 ひとと地域
土曜 クリエイティブライフ

同窓会長

■常田勝男・電気会会長 (1981年電気工学科卒業) 卒業研究で出会ったマイクロコンピュータ技術を産業界に活かして35年。電気会を幅広い領域で活躍している技術者が集い情報交換や協力ができる場として、日本の最高の技術力を発揮できる集団にしたいと考えております。



■渡辺孝夫・数学会会長 (1981年数学科卒業) 年1回の研究集会を充実させ、会員諸兄の数学教育学や数学研究の探求を支援するとともに、在学生並びに大学数学科教員と親密な情報交換会を行い、次世代につながる活動を目指す所存です。



■熊倉誠・材料会会長 (2016年材料機能工学科卒業) 材料会の執行部は院生を中心に構成されており、比較的若い組織で

す。活動運営は活発・迅速をモットーに会員諸氏の業務を支援できるよう努めています。また母体である材料機能工学科の発展に寄与することのできる組織になることを望んでいます。



■山本拓弥・情報会会長 (2016年情報科学科卒業) 設立から10余年、組織的な基盤が整いつつありますが、不備な面も散見されますので、鋭意整えることが喫緊の課題です。情報は社

会を支える基盤でもあります。それゆえ同窓生間の交流支援を活発に行うとともに、大学・社会と密接にかかわり、還元できる組織としたいと考えております。



■連絡先本部 名城大学理工同窓会(各会共通)
=名古屋市天白区塩釜口1の501、電話052・832・2515